

平成 21 年
4 月 30 日

病害虫発生予報 5 月号

茨城県病害虫防除所
茨城県植物防疫協会

全ての農作物に残留農薬基準が設定されています！！

薬剤散布の際は周辺作物へ飛散しないよう十分注意しましょう

< 目 次 >

. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

麦類：赤かび病	1
ナシ：黒星病，アブラムシ類，ナシヒメシンクイ	1
促成キュウリ：うどんこ病，褐斑病	2
促成トマト：トマト黄化葉巻病	3

【その他の病害虫】	4
水稲，麦類，カキ，促成ピーマン，促成・半促成ピーマン，促成トマト， 促成キュウリ，メロン，スイカ	

. 病害虫ミニ情報

イチゴ炭そ病について	5
------------	---

. 今月の気象予報	6
-----------	---

. テレホンサービス	6
------------	---

0 2 9 (2 2 6) 5 3 2 1

本文に記載された農薬の登録内容は，平成 21 年 4 月 22 日現在のものです。

水田において農薬を使用するときは，農薬のラベルに記載されている止水に関する注意事項等を確認するとともに，止水期間を 1 週間程度とすること。

農薬登録速報については，農林水産省ホームページ「農薬コーナー」
<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html> 内の登録速報を参照してください。

詳しくは，病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所 Tel :029-227-2445

予報内容は，ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>

・ 今月の予報

【注意すべき病害虫】

麦 類

1. 赤かび病

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
早い	平年並	県下全域

[予報の根拠]

六条大麦の出穂期は平年より4日早まり、小麦の出穂期は平年より7~9日早まった(農業研究所水田利用研究室 4月16日調査)。

気象予報によると、向こう1ヶ月の気温、降水量、日照時間はともに平年並と予想されている。

[防除上注意すべき事項]

小麦の防除適期は開花期(出穂後7~10日)である。圃場ごとの生育状況をよく確認し、適期に必ず防除を行う。

本病原菌は、麦の開花期から10日程度の間が最も感染しやすく、この期間に降雨が続き、気温が20以上になると本病の発生が多くなる。この間の気象には十分注意し、発病の好適条件が続く場合は、1回目の薬剤散布後7~10日に2回目の散布を行う。ただし、出穂期以降1回しか使用できない薬剤があるので注意する。

倒伏や収穫の遅れにより発生が助長されるので、適期収穫に努める。また、収穫後は速やかに乾燥調製を行う。

ナ シ

1. 黒星病

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
平年並	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

4月下旬現在、**県西地域における発病果そう率は平年よりやや高く、発生地点率も高い。**その他の地域では平年並~やや高い。

気象予報によると、向こう1ヶ月の降水量は平年並と予想されている。

[防除上注意すべき事項]

果そう基部病斑は、葉や果実への伝染源となるため、見つけ次第果そうごと除去し、地中深く埋める。

発病果そうを除去後、参考防除例に基づき、薬剤防除を確実に実施する。

薬剤散布は、10a当たり300リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部など、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。

2. アブラムシ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
早い	多い	県下全域

[予報の根拠]

4月下旬現在，寄生新梢率及び発生地点率は平年より高い。
気象予報によると，向こう1ヶ月の気温は平年並と予想されている。

[防除上注意すべき事項]

園をよく観察し，発生を認めた場合は，発生密度の低いうちに参考防除例に基づいて薬剤散布を行う。

薬剤散布は，10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部など，薬液のかかりにくい部分に対しては，手散布等により補正散布を行う。

薬剤抵抗性アブラムシ類の出現を避けるため，同系統薬剤の連続散布は行わない。

3. ナシヒメシンクイ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
やや早い	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

4月下旬現在，フェロモントラップへの誘殺は平年よりやや早く，誘殺数は平年よりやや多い。
気象予報によると，向こう1ヶ月の気温は平年並と予想されている。

[防除上注意すべき事項]

コンフューザーNを設置する園では，設置前にシンクイムシ類の防除を実施する。

薬剤散布は，10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部など，薬液のかかりにくい部分に対しては，手散布等により補正散布を行う。なお，次世代の防除適期（6月）が平年より早まる場合も考えられるため，今後の情報に注意する。

促成キュウリ

1. うどんこ病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
-	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

4月下旬現在，発病葉率及び発生地点率は平年よりやや高い。
気象予報によると，向こう1か月の降水量や日照時間は平年並と予想されている。

(促成キュウリ うどんこ病続き)

[防除上注意すべき事項]

収穫期後半は、発生が増加する傾向にあるため注意する。

罹病部は新たな伝染源となるため、病斑の多い葉は取り除き、ハウス外に持ち出して処分する。

薬剤は、葉裏や葉柄にもよく付着するよう十分な量で丁寧に散布する。また、耐性菌の出現を防ぐため、同系統薬剤の連続散布は行わない。

2. 褐斑病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
-	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

4月下旬現在、発病葉率及び発生地点率は平年よりやや高い。

気象予報によると、向こう1か月の降水量や日照時間は平年並と予想されている。

[防除上注意すべき事項]

収穫期後半は、発生が増加する傾向にあるため注意する。

罹病部は新たな伝染源となるため、病斑の多い葉は取り除き、ハウス外に持ち出して処分する。

ハウス内が多湿になると発生しやすいため、適切な換気に努める。

薬剤は、葉裏や葉柄にもよく付着するよう十分な量で丁寧に散布する。また、耐性菌の出現を防ぐため、同系統薬剤の連続散布は行わない。

トマト黄化葉巻病について

[現在の状況]

4月下旬現在、発生ほ場を確認している。

今後、本病を媒介するタバココナジラミの活動は活発となり、発生量が増加するので注意が必要である。

[防除対策]

発病が認められた株は、感染源となるため早期に抜き取り処分する。

タバココナジラミは多発すると防除が困難となるので、発生初期の防除を徹底する。なお黄色粘着板を設置し、タバココナジラミの発生推移を観察して防除を行うと効果的である。薬剤散布にあたって、タバココナジラミは葉裏に寄生するため、薬液が葉裏にも十分かかるよう丁寧に散布する。

雑草はタバココナジラミの生息場所となるため、ハウス内外の除草を徹底する。

防虫ネットの設置は防除対策として重要であるため、設置していない場合は次作の対応として、ハウスの開口部に防虫ネット(0.4mm目合い以下)を設置し、タバココナジラミのハウスへの出入りを防止する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
水稲	イネミズゾウムシ	発生時期: やや早い 発生量 : -	4月下旬現在, 活動開始時期は平年よりやや早い。向こう1か月の気温は平年並と予想され, イネミズゾウムシの本田での生息数が最高に達する時期は, 県南及び県北とも5月中旬頃になると予想される。
麦類	アブラムシ類	発生量 : 多い	4月下旬現在, 平年より多い発生である。
カキ	カキクダアザミウマ	発生量: 平年並	4月下旬現在, 発生を認めない。 新葉が巻き込む被害が認められたら, 直ちに防除を行う。
ピーマン 促成	斑点病	発生量: やや多い	4月下旬現在, 平年よりやや多い発生である。
ピーマン 促成・半促成	タバココナジラミ	発生量: やや多い	4月下旬現在, 平年よりやや多い発生である。
トマト 促成	灰色かび病	発生量: やや多い	4月下旬現在, 平年よりやや多い発生である。
促成 キュウリ	タバココナジラミ	発生量: 多い	4月下旬現在, 平年より多い発生である。
	アブラムシ類	発生量: やや多い	4月下旬現在, 平年よりやや多い発生である。
	ハモグリバエ類	発生量: やや多い	4月下旬現在, 平年よりやや多い発生である。
メロン	アブラムシ類	発生量: やや多い	4月下旬現在, 平年よりやや多い発生である。
スイカ	アブラムシ類	発生量: やや多い	4月下旬現在, 平年よりやや多い発生である。

イチゴ炭そ病について

イチゴ炭そ病は、本圃では定植直後から発病し枯死する等、イチゴに重大な被害を及ぼす病害です。本圃での発病はほとんどの場合、感染した苗の持ち込みによるもので、定植後の防除は困難です。このため、育苗時からの防除対策が最も重要となります。

【炭そ病の特徴】

病原菌は糸状菌で、葉や葉柄、ランナーに病斑を生じ、クラウンに菌が侵入すると株全体がしおれて枯れます。15 以下では症状は現れにくく、20 以上で発病し始め、25～30 が発病適温です。

外観上健全に見えても保菌している株や、被害残渣を含む土壌が第一次伝染源となります。主に降雨や灌水時の水滴の跳ね上がりとともに孢子が飛散し、周辺の株やランナー、子苗へと感染を拡大していきます。

【防除対策のポイント】

1) 健全苗の利用

親株は定期的に更新し、無病地から選抜した健全な株を用いてください。また本圃に定植する苗も、発病が見られない健全な苗を使用してください。

2) 育苗時の注意点

(1) 雨よけ栽培

本病は主に水滴の跳ね上がりとともに拡大します。このため、降雨による水滴の跳ね上りを防ぐ雨よけ栽培は本病の発病抑制に有効です。

(2) 灌水方法

灌水による水滴の跳ね上りを防止するため頭上灌水は避け、点滴型の灌水チューブを用いるか、弱い流し水等で行ってください。雨よけ栽培による育苗でも頭上灌水を行うと、ハウス内で雨が降っているのと同様の状態となり、雨よけの効果が薄れてしまいます。灌水方法にも十分注意してください。

(3) 採苗方法

ポット育苗等の場合は、育苗床や通路を透水性のあるシートで被覆したり、プランターを利用して地面から離れたベンチの上で栽培すると、水滴の跳ね上がり防止に効果があります。また葉が重ならないように適度な間隔を開け、風通しを良くしましょう。

(4) 環境条件

育苗は無病の排水の良い圃場で行い、過湿に注意してください。やむを得ず発病圃場で育苗する場合には、土壌消毒を行ってください。

(5) 薬剤防除

薬剤散布は予防を重点に行ないましょう。台風など強い風雨の前後や、下葉除去等の株を傷つけるような作業後には、薬剤散布を徹底しましょう。なお、強風雨の翌日等に急激に天候が回復した時は、薬害の発生に注意してください。また、薬剤耐性菌の発生を防ぐため、同一系統薬剤の連続使用は避け、ローテーション散布を心がけてください。

(6) 発病株の処分

発病株を発見したら、発病株と周辺の株の抜き取りを早急に行ってください。また抜き取った株は伝染源となるので不用意に圃場周辺に放置せず、肥料の空き袋等に入れて密封して腐らせるか、土中深く埋める等、適切に処分してください。

・ 今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 4月25日から5月24日)

気象庁(4月24日 発表)

< 向こう1か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率(%) >

[確率]	要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気温	関東甲信全域	30	40	30
	降水量	関東甲信全域	30	40	30
	日照時間	関東甲信全域	30	40	30

[概要]

天気は数日の周期で変わるでしょう。

1週目は気温が低く, 2週目は気温が高くなる見込みで, 寒暖の変動が大きいです。

< 1週目の予報 > 4月25日(土曜日)から5月1日(金曜日)

気温 関東甲信地方 低い確率 60%

< 2週目の予報 > 5月2日(土曜日)から5月8日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率 60%

< 3週目から4週目の予報 > 5月9日(土曜日)から5月22日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率 40%

・ テレホンサービス

下記の情報を24時間提供しています。リアルタイムな情報を提供するために, 病虫害の発生状況等によっては内容を変更することがあります。

電話番号: 029(226)5321

5月上旬 水稻の病虫害について

5月下旬 果樹の病虫害について

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し, 適用作物, 使用方法, 注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には, 周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず, 良く洗浄しましょう。